

このコーナーでは、九州一安心安全なまちづくりを目指す小林市で活躍する人やその活動など、協働のまちづくりに関する情報を提供します。



広報紙
「広報こばやし」2部門特選
県広報コンクール



地方創生
地方創生に向け意見交換
市民ら50人まちの未来探る



広報こばやし8月号(写真左)と12月号(右)

県 内市町村の優れた広報作品を表彰する平成26年(第51回)宮崎県広報コンクールで、「広報こばやし」が2部門で最優秀賞にあたる特選を受賞しました。広報紙(市)の部で受賞したのは12月号。特集「地方創生」では、市民や行政の取り組みを8ページにわたり取り上げました。写真(組み写真)の部では、市消防団長の芝原靖彦さんを紹介した8月号の小林人が特選を受賞しました。

市 では、来年度策定予定の「地方版総合戦略」や次期「総合計画」の参考にしようとして2月10日、市民からの意見を聴く「真のこばやし創生をめざした意見交換会」を中央公民館で開催しました。行政改革や協働のまちづくりなどに関する審議会や会議の委員、区長会や消防団幹部ら47人が参加。8班に分かれて、「30年後も持続可能なまち小林市」をテーマに意見を交換しました。



市の現状や解決策など、意見交換する市民ら。今後分野別に数回開催していく予定です

取り組みを紹介します

きずな協働体 今月は、野尻町区

今年6月誕生予定。野尻町区で準備が進んでいます

野 尻町区では、平成24年度から、住民12人と市職員13人からなる「今でしょ!!野尻まちづくり協議会」を中心に、きずな協働体の設立を検討してきました。まずは、機運づくりのために、各校区ごとに住民総出の防災イベントなどを実施。

そして、いよいよ今年6月に紙屋、野尻、三ヶ野山が一体となったきずな協働体が誕生する予定です。現在、野尻庁舎の3課に合わせる形で、分野別に3つの委員会を設置し、具体的な方針を協議中。各団体も交えながら、活発な議論を行っています。



各校区で行った防災イベント



今でしょ!!野尻まちづくり協議会
山口 健 会長

安心して暮らせる。そして、住んでよかったと思えるように、小さなことから一つずつ実行していきますよ!!

協働により「九州一安心安全なまち 小林市」を目指して

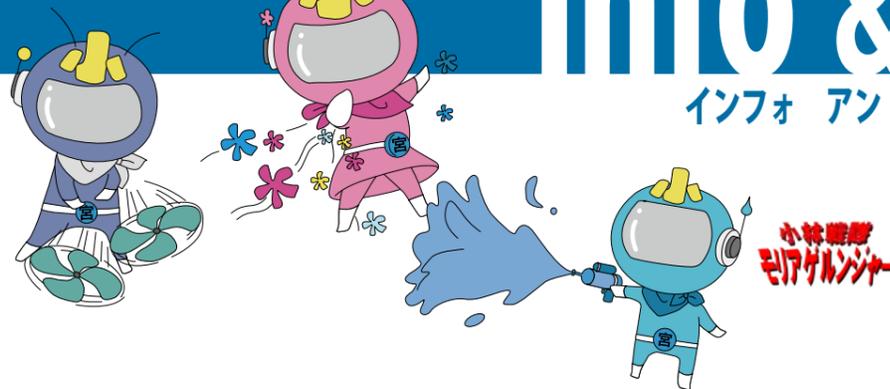


も応援。

こばやし協働

Info & News

インフォ アンド ニュース



このイラストは、小林高校3年生 海蔵楓寧さんが(当時・永久津中3年生)小林市の活性化を願い作成したものです。市の自然(花、星、水、虫)がモチーフになっています。



地域医療
「医療と介護の連携が必要」
在宅医療を考える集い



防災
災害時の情報共有システム
防災訓練で有効性を確認



看護師、ケアマネージャー、家族らが在宅医療の経験をもとに、意見を出し合ったシンポジウム

自 宅や施設にしながら医療を受ける在宅医療について考える「住み慣れた地域で生きることを考える集い in 小林」(県看護協会主催)が1月31日、市立病院で開催されました。市内外の医療関係者や市民ら97人が参加。基調講演には野尻中央病院の園田貞彦理事長が登壇。在宅医療が求められている背景や、医療・介護連携の必要性を説明し、「医療、介護分野で情報を共有する仕組みが必要。家族や地域の協力も不可欠」と呼びかけました。

災 害時に、パソコン上で入力した情報を、関係機関で共有できる「官民協働危機管理クラウドシステム」を使った防災訓練が1月27日、中央公民館で行われました。肥後市長や職員ら40人が参加。訓練開始と同時に、火災発生、けが人多数、避難の要請やメディアからの問い合わせなど、次々に情報が寄せられる中、土木、医療や福祉など対策部ごとに対応を協議。訓練をとおり、システムへの入力手順や有効性を確認しました。



他の対策部などが入力した状況を確認しながら、入ってきた情報に対し、対応を協議する職員ら